

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372501193		
法人名	有限会社 富士松		
事業所名	グループホーム輪楽笑Ⅱ		
所在地	愛知県春日井市白山町5丁目8番地6		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成22年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372501193&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣S101号室
訪問調査日	平成22年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、閑静で環境の良い住宅地にあります。近くには利用者の皆さんの足で歩いて5分以内に行ける公園が2箇所あり、散歩コースの1つにもなっています。「輪になって楽しく笑って暮らそう」と施設の名称のどおり皆さんには楽しく過ごしていただいております。職員も各々のニーズに合わせ3名で1チームをつくり、心のもった温かい介護に努めています。開設以来8年になりますが、ご家族への情報は毎月「輪楽笑Ⅱだより」を欠かさず発行し、日常生活の写真や出来事をはじめ、詳細な介護記録を報告し、ご家族と全職員が情報の共有化にも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「輪楽笑Ⅱ」はその名の通り、輪になって楽しく笑って過ごすことを体現しているホームといえる。利用者にとって楽しく笑いのある穏やかな暮らしができるよう、職員は自分の個性を活かし、日々利用者との輪を大切にケアに取り組んでいる。自宅での生活をそのままホームでも実現できるよう、職員は利用者が今「何をしたいのか、何を言いたいのか」等、言葉や表情、仕草等で本人の気持ちを感じ取ったうえでの支援に取り組んでいる。利用者は毎日の食事の準備や片づけなどに役割をもって参加し、生き生きとした時間を過ごしている。開設8年を経て、日々の地域への働きかけが実を結び、ホームで催す行事や避難訓練に参加する地域住民が増えており、地域でのホームの位置づけが深くなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分らしく、地域で暮らし続ける事が出来るようサポートする事をホームの理念とし、日常生活の基本となることを職員全員が念頭に置き支援している。	法人としての理念を踏まえたうえで、ホームの日々のケアの根幹と思われる部分を切り取り、「みんなで、ゆっくり、あきらめない」とし、職員一人ひとりが念頭におき、ケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ポン菓子の実演(4月3日)を行ったり、地元の防災フェスタ(4月24日)に参加、また9月26日には地元住民の参加により防災訓練を実施した。	社会福祉協議会主催の「元気の出る会」に、月に1回、地域住民とともに参加し、認知症についての理解を得る取り組みを行なっている。ホームの行事に参加を呼びかけ、出席を得たり、地域の住民から野菜の差し入れを受けることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の社会福祉協議会が開催する「元気の出る会」では2月17日に、当施設の代表者・梶田がグループホームについて講演をした。認知症等について理解をしていただいた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している。4月には会議の一環として、「イチゴ狩り」を開催し地域の方々にも参加して頂きました。ご近所では「輪楽笑のを知っています」と言われたり、野菜などを差し入れていただく事もある。	2か月毎に開催され行政職員が出席もある。今年は防災の強化を話し合うことが多く、出席者がそれぞれの立場で協力を申し出ている。AEDを自治会と共同購入する提案があり検討し、ホームの運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ市への相談・確認・指導を受けている。防災訓練を市消防本部の参加・協力により実施、緊急時の避難方法などの指導を受けた。9月26日に実施したが、地元の皆さんにも多数参加いただいた。	市や地域包括支援センターの担当者とは防災や生活保護などについて協力を得るなど、日常的に連絡を取り合い、協力関係が築かれている。また、ホームからの相談の他にも、行政側からの相談も来る関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	動く自由が基本的な権利であることを理解しており、行動を制限する事はない。	玄関は常に開錠状態である。身体拘束をしないケアについては高い意識で取り組んでいて、身体面のみならず、言葉による拘束も行わないことを原則とし、職員同士で注意喚起している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員も研修を通じて、虐待に関することは十分理解をしている。利用者に対して一番大切なことであり、そのような事の無いよう常に努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市居宅事業者研修会などの資料で職員に説明し、供覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームへの入居時に契約に関する内容を十分説明しており、納得の上で入居契約、退去の解約をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された時は各自の部屋に案内したり、事務所で意見を聞いている。また運営推進会議の場でも現状を伝えている。	全ての利用者の家族が、月1回以上来所するため、その際に意見、要望を受けている。家族からの要望については、必ず全て検討を加え、家族とも話し合いながら、運営に活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回の「全体会議」において、運営に関する意見を述べ、職員から意見を聞き、反映させている。	月に1回の全体会議で、職員は積極的に意見を出している。職場の業務についての改善や利用者のケアについて等、職員の意見をできる限り管理者は受けとめ、運営面に反映している。	職員の資質向上を図っていくためにも、日々のケアの中での気付きを、今後も継続してホーム運営の提案へ繋げる力をつけていくことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が楽しく働ける職場であるよう日々努めている。給与水準を上げることは現在の経営状態では非常に困難な課題であるが、管理者なりの努力はしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等を受ける機会を常に確保している。また受講した内容などの報告会や説明会を設けている(毎月の全体会議や回覧で)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会の研修会やブロック会議等を通じて交流する機会を多くもてるよう取り組んでいる。平成22年5月には職員と入居者が一緒に他の施設を訪問、勉強した。また施設間での交流・訪問も実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず本人と面談。利用者本人の意向や希望を聞いたうえで、その人の長所等を生かし、常に利用者と同じ目線で対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談を通じて、利用者の現在に至るまでの生い立ちなどを詳しく聞いている。困っていることや不安に感じている事をよく聞き、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望、本人の希望や状態をよく観察している。本人にとってどうする事が一番良いのか、どのように支援すべきかを見極める努力を常にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護が独り歩きしないように、人生の先輩として知識や経験したことを聞き、話題を共有し、利用者の立場になり対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行する「輪楽笑だより」の中で日頃の暮らし方や健康状態をお知らせしている。今後も支援方法を伝えて、職員と家族ともども情報を共有していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	正月には自宅に帰られ、お盆には墓参りに行っていただけるよう促している。知人や同僚からの電話を取り次ぎ、会話が出来るよう支援をしている。	家族と一緒に、自宅や墓参りに行かれる方がいる。さらに、入居期間が長期になることで、後に馴染みの場所となった買い物の場所や美容院等、希望があれば同行するように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員が対等であるよう見守り、一人ひとりの個性や性格を把握している。全員が助け合いながら生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1月に退所され老健に移られた方を訪問したり、家族からの相談にもものった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	歌が好きな人、百人一首が得意な人、思い出話を好む人など、一人ひとりに合わせて対応している。	担当制でケアにあたり、話をよく聞くことで思いや意向を把握している。意思疎通困難な方には、行動や表情を見て、今何を望んでどんな気持ちなのかを受け入れ、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	幼いころの思い出や出来事、また友達や家族の話題など、家族の協力を得て情報収集をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループ制もかなり定着し、日々の行動の中から、出来ること、したいこと等、その人の有する力や得意とすることなどの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に施設での生活に何を希望しているかを聞き取り本人の能力を生かす事を念頭にいれている。また、3ヶ月毎にモニタリングと評価を行い、サービス担当者会議の意見等を介護計画に反映。	担当の職員が、利用者のモニタリングを行ない、3か月ごとにカンファレンスを開いて意見を出し合っている。計画作成担当者は、日々の介護記録や連絡帳の家族からの意見等を元に、介護計画を作成している。	職員のモニタリングが介護計画作成につながることを意識し、日々のケアを行なうことで、サービスの質がより一層向上することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに毎日記録している「介護記録」や「連絡帳」を参考にして、実践や介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期健診・緊急時の通院介助は職員の対応はもちろんの事、提携医以外への受診も行っている。また家族に代わり、役所への窓口手続き等しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の歌謡ボランティアから、民謡、詩吟、などのボランティア7の皆さんの協力や地域にある小学校の実践教室の場としてホームを提供している。今年の夏休み8月には小学生のバイオリンコンサートも演奏された。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する病院で受診し、主治医より指示を得、家族に報告している。かかりつけ医師を変えたいという希望には受診に同行し、スムーズに変更が出来るよう、支援を行った。	提携医への受診が月1回、歯科の受診は随時、職員同伴で行われている。利用者の希望で月2回の脳神経外科医の往診もある。服薬、健康管理はホーム看護師が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	薬の管理は勿論、排便・排尿等健康の管理から介助まで支援してくれます。定期検診時の付き添いや健康に関する助言もしてくれます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーで情報を提供して、職員もお見舞いに行ったりして病状など様子を伺っている。現在、脳神経外科医の往診も毎月2回していただいております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	90歳以上の高齢者、透析をしている人、持病のある方など、常に身体状況と予測を伝え、今後のあり方を話し合い、ホームで出来る事を説明している。重度化しホームでの入浴が出来なくなった方は訪問入浴を利用したことがある。	看取りを行なう方針であり、入居時に「看取りに関する指針・同意書」で確認している。利用者の状態により、家族とは話し合いを持ち、段階に応じた、できる限りの支援を行なっている。提携医も24時間態勢であたることになっており、医療面での支援も受けられる。	重度化や終末期におけるケアにおいて、ホームとしての方針に沿いながら、今後起こりうる状況に対する医療面や職員体制などの態勢強化の検討が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを社内研修で確認し備えている。緊急時対応は「緊急時利用者情報」を整備しており、即時に医療機関と連携できる態勢です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に定期的に避難訓練を実施。職員は災害時の対応について認識している。平成22年9月26日に地域の方々の参加、消防署の指導により、防災訓練を実施しました。	年1回消防署と連携の避難訓練をし、さらに毎月、内部で、昼間、夜間、職員人数等設定を変えながら訓練している。非常通報ベルを設置し、近隣住民の協力で聞こえる範囲を確認している。また、ホーム内で必要な備蓄品も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の立場に立って、利用者の尊厳、プライバシーを尊重した言葉かけや、支援をしている。	利用者の居室に入る際には、ノックや声かけを行ない、衣類の整理は一緒に確認をしながら行なっている。トイレへ誘導する時の声かけ等、一人ひとりの気持ちを尊重した対応を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方的に利用者に指示をするのではなく、何がしたいのか、どうして欲しいのか利用者本人の気持ちを尊重した支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的なスケジュールや決まりを優先させることなく、常に利用者の立場に立って、同じ目線で、出来る限り利用者個々に合った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「髪を切って少し若くなったね」「その服とても似合うね」等の声かけを忘れないようにしている。褒めたりすると利用者に喜びと笑顔がみられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルで楽しく食事をしている。また咀嚼に問題のある人には軟らかい物を提供し、ゆったりと楽しく食事が出来るような雰囲気を中心掛けている。	献立は職員と利用者が話し合っ決めて、買い出しも一緒に行っている。食事の準備や配下膳は、利用者も参加しながら、役割を持って分担している。週1回程度外食もあり、利用者の楽しみの一つとなっている。	グループホーム全体が重度化が進み、食事面での支援が困難になっている。ホームにおいて、職員の適切な支援で、生き生きとして台所に立つ姿が、今後も続いてくれることを願いたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食前にその人の食事量を確認して把握している。10時、15時、20時のお茶の時間に水分補給もできている。今年の夏は異常に暑かったため皆さんには十分に水分を採ってもらった。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、各食後、入床前に全員が必ず歯磨きを行い、義歯の洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ+パットを布パンツ+パットに替え、本人の意思を確認した上でトイレ誘導をしたり殿部に手を当てるしぐさなどの様子から、トイレへ誘導し排泄の失敗を減らしている。	排泄チェック表を記録し、排泄パターンやサインを見極め、トイレへの誘導を行なっている。状況をみながら、紙パンツから布パンツへ変更する自立した排泄への取り組みが行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護職員の指導のもとに、買物の同行、散歩に出かける等、出来るだけ身体を動かすようにして便秘の予防をしている。常に排便の有無の把握にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの気分や、体調を見て入浴を勧めている。また急がず、あわてず、ゆったりと入浴を楽しめるよう、支援している。	入浴は毎日可能であるが、ほぼ1日おきの入浴である。入浴を拒む際には、清拭を行ったり、職員と一緒に入浴の準備につきそうなどの工夫を行ない、楽しく入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルに合わせて休んでいただいている。眠れない方には暖かい飲み物(夏は冷たい物)を飲んでもらう。気分的に寝付かれない方には少し話し相手になってあげる事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員の指導のもと適切に対応している。薬の説明書を利用者ごとにファイルして薬の使用目的などを理解し、薬は手渡しで確実に服用したかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意向に任せてお手伝いをさせていただいている。手伝いの後は、「ありがとう」のお礼と、感謝の気持ちをしっかりと伝えている。テレビ番組で皆さん共通に好きな楽しみなものもあり、ほとんど全員が見られる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩から、テーマパークなどの遠出は、天候、体調に合わせ本人の希望を聞きながら支援している。また家族との外出を楽しめるよう、受診の日程を決めるなど協力している。	ほぼ毎日、近所の公園等までの散歩は欠かさないようにしている。家族の協力も得ながら、イチゴ狩りや桜見物、紅葉狩り等、季節感を楽しむための外出も支援している。歩行困難な方も車椅子で外出し、バーベキューを楽しむこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり事業所で個々の分をキチンと管理している。買物や喫茶店での支払いを本人にさせていただく工夫をしているが、職員が支払いをする。お金のありがたさや大切なことは理解をしているようです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手作りはがきで暑中見舞いなどを出す時の支援をしている。電話をかけたり、家族から本人にかかることは殆んど無い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間などに絵画や写真などを飾り、家庭的な雰囲気を感じ、会話が盛り上がるような工夫をしている。また、季節に合った花を飾り、会話に結びつけ、居心地良く過ごせるようにしている。	居間兼食堂は、利用者がどこにいるか職員がすぐに見渡すことができ安心感がある。利用者の個性が感じられる、様々な作品が飾られ、利用者同士の会話に花を咲かせている。ホームには、猫が飼われ、利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	夏には玄関先の広場で花火したり、外で少しひとりになりたい方などテラスの縁台を使用している。利用者同士の会話は殆んどが居間のソファでしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使用していた家具を置き、写真を飾ったり、安心して過ごせるような配慮をしている。	担当職員が利用者と一緒に衣類の整理をしたり、思い出の写真を置くなどの工夫をしている。居室は畳敷きの部屋もあり、利用者の気持ちに添った居室になるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	脱衣場に暖房設備を設置するなど、利用者の身体状況に合った環境整備に努めている。施設的环境や安全については全体会議や毎日のミーティングで話し合い、状況に応じ対応している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム輪楽笑Ⅱ

目標達成計画

作成日 平成22年10月15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議開催と会議で決定した事や内容を生かした取り組みの実施	平成22年度も前年に引き続き6回の開催。	・地元の皆さんにも参加していただいた「イチゴ狩り」の実施(4月13日)。12月下旬に計画しているクリスマス会の開催、利用者楽しんでいただくこと。ホームの現状や課題を報告する。	実施済及び3ヶ月
2	35	地元住民の参加の防災訓練(救出訓練、消火訓練等)	施設周辺の皆さんの参加と消防本部の指導により訓練を実施し、緊急時の対処方法を学ぶ。	火災等緊急時には施設職員だけの災害対応は非常に困難。日頃から施設の存在を知っていただき、支援していただけるよう心がける。訓練の参加には町内会の回覧と個々の家庭にチラシを配布。	4ヶ月
3	13	職員研修(介護職員として育てる取り組み)	介護職として、職員一人ひとりの認識を高め、利用者が安心して生活できる施設にする。また家族からは信頼される施設となるよう努める。	毎月の全体会議で、日常の介護に対する問題点や理解できない事などについて職員全員で話し合おう。知識のある職員からは助言を受ける。外部の研修会に出席したり、勉強会を開催する。	6ヶ月
4	14	同一法人・同業者との交流する機会があまりなく、介護等に関する情報交換が少ない。	市内に多数あるグループホームとの交流を深め、ケアの向上を図る。	2人一組ぐらいで何箇所かのグループホームへの見学実習。利用者も他施設への見学が可能なのは同行させてよい。また、当施設へ他の施設から見学等に来ていただくよう努める。	6ヶ月
5					ヶ月